

主要行等の令和7年3月期決算の概要

1. 損益の状況（グループ連結ベース）

- 令和7年3月期は、一部グループにおいて外債等の含み損処理に伴う損失や景気後退に備えた貸倒引当金の計上が見られたものの、国内貸出金の利回り上昇や残高増加等による資金利益の増加や、資産運用ビジネス等の手数料収益の増加、政策保有株式売却益の増加等により、当期純利益は前年同期比33.2%の増益（45,023億円）。

（単位：億円）

	R5年3月期	R6年3月期	R7年3月期	前年同期比
業務粗利益	115,933	129,174	137,944	8,770
資金利益	63,039	57,256	68,418	11,161
役務取引等利益	40,824	46,098	50,437	4,339
その他業務利益	202	9,378	▲ 4,574	▲ 13,951
うち債券等関係損益*	▲ 11,893	▲ 5,602	▲ 12,581	▲ 6,979
経費	▲ 73,850	▲ 79,481	▲ 86,791	▲ 7,310
業務純益	42,776	50,845	51,746	901
コア業務純益*	38,077	36,311	42,441	6,130
コア業務純益*（除く投資信託解約損益）	31,742	34,798	40,448	5,649
与信関係費用**	▲ 10,244	▲ 10,106	▲ 5,975	4,130
株式等関係損益	5,973	5,282	14,218	8,936
親会社株主に帰属する当期純利益	28,807	33,788	45,023	11,234

*債券等関係損益、コア業務純益については銀行単体ベース。**与信関係費用について、正の値は益を、負の値は損を表す。

（参考）	R5年3月末	R6年3月末	R7年3月末
貸出金（末残）***	349.6兆円	371.5兆円	380.6兆円

***貸出金は銀行単体ベースの銀行勘定計。

2. 不良債権の状況（銀行単体ベース）

- 不良債権残高と不良債権比率は、令和6年3月末に比べ低下。

	R5年3月末	R6年3月末	R7年3月末
不良債権残高	3.2兆円	3.9兆円	2.9兆円
不良債権比率	0.81%	0.93%	0.67%

3. 自己資本比率の状況（グループ連結ベース）

- 国際統一基準行の総自己資本比率、Tier1比率、普通株式等Tier1比率は、令和6年3月末に比べ上昇。
- 国内基準行の自己資本比率は、令和6年3月末に比べ横ばい。

（国際統一基準行：4グループ）

（国内基準行：3グループ）

	R6年3月末	R7年3月末
総自己資本比率	16.50%	17.07%
Tier1比率	14.83%	15.36%
普通株式等Tier1比率	12.98%	13.19%

	R6年3月末	R7年3月末
自己資本比率	11.42%	11.46%

（注1）記載金額・比率は、四捨五入して表示。

（注2）グループ連結ベースは、みずほFG、三菱UFJFG、三井住友FG、三井住友トラストG（以上、国際統一基準行）、りそなHD、SBI新生銀行、あおぞら銀行（以上、国内基準行）を対象とする。

（注3）銀行単体ベースは、みずほ銀行、三菱UFJ銀行、三井住友銀行、りそな銀行、三菱UFJ信託銀行、みずほ信託銀行、三井住友信託銀行、SBI新生銀行、あおぞら銀行を対象とする。

（注4）各グループ公表資料等より、金融庁作成（公表数値の定義はグループにより異なる場合がある）。

（注5）過去の計数については、一部グループの業績修正等により、過去の当庁公表数値と異なる場合がある。